

徳島初 ロボット支援下心臓手術を実施

<報道概要>

徳島大学病院心臓血管外科は、令和 8 年 5 月に徳島初（四国では 2 施設目）のロボット心臓手術実施施設に認定され、6 月に県内初となるロボット支援下僧帽弁形成術（注 1）を実施しました。合併症はなく予定通り手術を終了し、術後経過も良好です。

従来、僧帽弁形成術に関しては内視鏡下右肋間小開胸手術（注 2）を行ってききましたが、ロボット使用により更に良好な視野が安定して得られ、安全かつ精緻で質の高い弁形成手術が提供できるようになると期待されます。

他の外科手術と同様に心臓手術においても、患者さんの身体的負担をできる限り抑えるための、より低侵襲な手術が求められています。これに応えるため、従来、弁膜症手術などでは内視鏡下右肋間小開胸手術（低侵襲心臓手術：MICS）が行われてきました。一方で、他科ではロボット支援手術が普及していますが、心臓領域ではその専門性からハードルが高く、他の領域に比べ普及が進みにくい状況にあります。

徳島大学病院心臓血管外科では、ロボット支援手術の実施によって、より低侵襲な手術を患者さんへ提供していきます。

<用語解説>

注 1) 僧帽弁形成術：

心臓の左心房と左心室の間にある僧帽弁が正しく閉じなくなったり（僧帽弁閉鎖不全症）、狭くなったり（僧帽弁狭窄症）した際に、弁の交換をせずに自分の弁を温存して修復する手術。

注 2) 内視鏡下右肋間小開胸手術：

胸の中央の胸骨を切開せず、右側胸部の肋骨の間に数 cm の小さな切開を置き、内視鏡を用いて行う低侵襲心臓手術。

お問い合わせ先

徳島大学病院心臓血管外科

担当者 診療科長／教授 秦 広樹

電話番号 088-633-7152

メールアドレス hatahiro[アット]tokushima-u.ac.jp

※メールを送信する場合には、[アット]を@に置き換えてください。